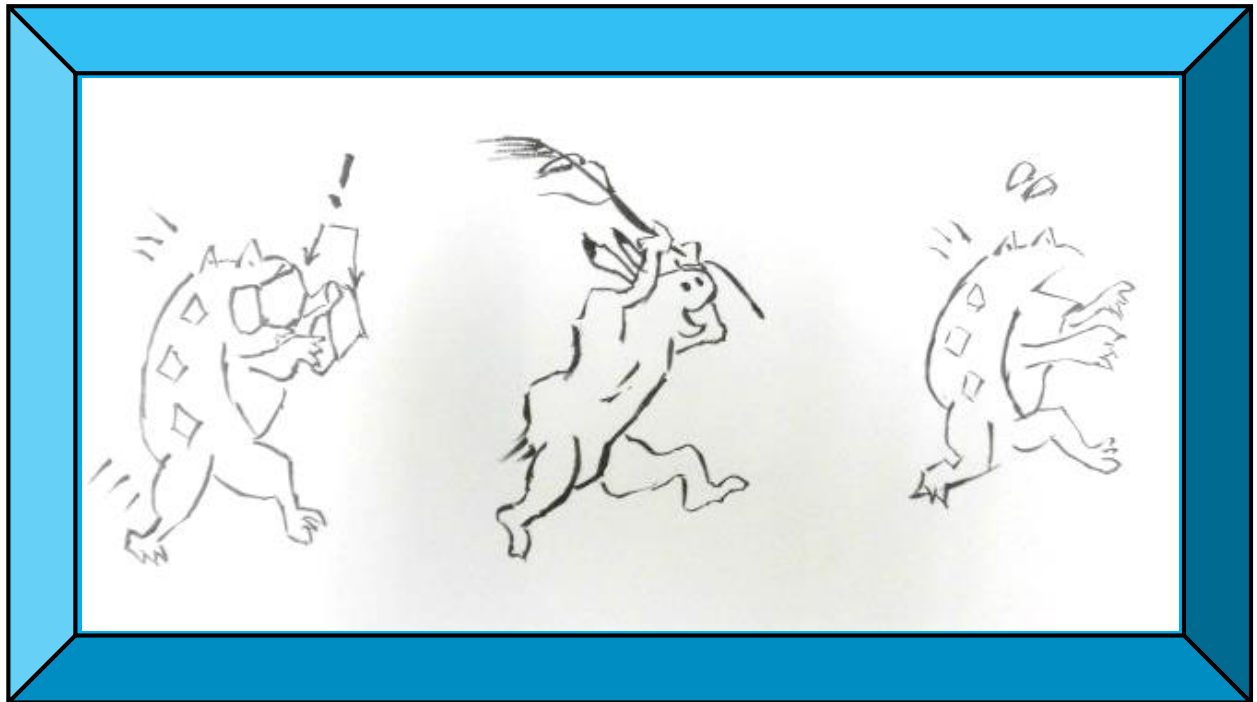


日本の文化にあるもの

リフレッシュ編 鳥獣戯画



今上の絵は何をしているように見えますか？

鳥獣戯画、正しくは鳥獣人物戯画と言って、平安時代頃に描かれた絵巻物です。これは日本最古の漫画という表現がされることもあります。内容はウサギ、カエル、サルなどが擬人化して当時の世の中のようにすをおもしろおかしく描いたものです。擬人化は日本の大事な文化の一つとしても考えられるかもしれません。擬人化することでさまざまなものを分りやすく描くことができます。「はたらく細胞」なんていうのもありましたね。歴史上の人物、新撰組などに興味をもつ人は多いと思いますが、人物だけでなく、日本刀の美しさに魅了される人もいるのではないのでしょうか？例えば坂本龍馬の愛刀「陸奥守吉行」を知っている日本の人は多いのでは。「大包平」や「山姥切長義」を擬人化して描かれたものもありますね。

3年生は1年生の頃の文化祭でも皆で取りくみましたね。

上の絵に何か見慣れたものはありますか？

絵の得意不得意は関係ありません。筆ペンがあるととてもいいです。筆ペンは何となく上手なように見せてくれます。筆で書くという文化があることも人の心を落ち着かせてくれるのかもしれません。

この機会に日本の文化について学んでみようか興味をもちます。

サッカー元日本代表の中田英寿氏は、海外での生活で日本のことを聞かれても何も答えられない自分に気づき、今では日本のたくさんの文化を学んでいるそうですよ。

バスケットボール選手田臥勇太さんが言っていました「Never too late」

今からでも遅くない。気づいたら今からでもチャレンジしよう。ということだそうです。